

## 第2章 乳児期における『気になるこども』に関する 気づきの観察事項（チェックリスト）の活用について

### ◇ 保育士の気づき

赤い色のブロックや積み木ばかり集めて持ち歩いている、一人遊びが多く他のこどもの遊びに興味がない、友だちが歌う声や体操の曲を嫌がって耳をふさぐ、回るものや光るものを好んで見る（見え方を楽しむ）、抱っこしても身体が添わない、などの姿に出会うことはありませんか。自閉スペクトラム症については、3歳児以降に確定診断がつくことが多いのですが、その特徴は乳児期に気づくことも多くあります。乳児期から保育所で過ごすこどもの気になる姿に対して職員で共通理解を図り、予防的な取組みを進めるため【乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）】を参考に、注意深く見守りましょう。

### ◇ 予防的取組みと大切にしたいこと

チェックリストをつけることで見えてきたこどもの姿に目を向け、この時期に予防的な支援をすることが大切です。

遊びに集中しにくいこどもであれば落ちつく環境を用意し、積み木遊びで積み木を高く積んでいくことにじっくりと関わったり、指さしに応じながら1対1で絵本の読み聞かせを行い、語彙を豊かに語りかけたり、ままごと遊びで行動や物と言葉を一致させるやりとりをするなど、保育士が意識的に関わりを持ちます。毎日少しずつでも、このような遊びで個別に継続的に関わることで、抑制する力が育ち集中できるようになります。

この意識的な関わりを担任同士で共有し継続させること、それが乳児期におけるこどもへの援助なのです。複数で関わることの多い乳児クラスでは、特に保育士集団の共通理解と共通した援助が大切です。

乳児期の支援の土台は、保育士との安定した人間関係であり、困った時や不安な時には特に同じ保育士が同じように対応することで、大人への信頼関係が育ちます。この時期の一人一人への丁寧な関わりが土台となり、スムーズに幼児期の生活に移行していきます。乳児期のあいだに予防的な取組みを行うことが『支援の始まり』です。

## 不安感のある A ちゃん

2歳児より入所した A ちゃん。初めてのことや、知らない場所に対しては不安な様子を見せ、クラス以外の部屋に入るのを嫌がる姿がある。担任と一緒にいれば、その場にいることができるが、落ち着かない様子を見せる。家庭ではオムツを使用しており、トイレに誘うことはまだしていないが、母親は、そろそろ始めようかな…とは思っている。保育所でトイレに行くことを促してもとても嫌がり、保育士と一緒に連れていくが、なかなか慣れず落ちつかないので、トイレで排泄をしたことはない。毎日の生活の流れは理解していて、言葉がけで行動でき、身のまわりのことはほぼ一人でしようとしている。

友だちには興味・関心を見せ、自分から関わろうという姿があり、簡単な言葉のやりとりをしながら好きな遊びを楽しんでいる。落ちついて遊んでいることも多いが、つま先歩きをしたり、歌を歌う時はじっと立っていることが難しく、飛び跳ねていることも多い。

### 保育士の気づき（気になる姿）

- 初めての集団生活なので、入所当初は不安や緊張も大きいかと思われたが、毎日の生活の流れがわかりスムーズに生活を送れるようになってきて、トイレに行くことは頑なに嫌がる。
- 生活と同じようにクラスの様子に慣れてくると、友だちとの関わりも喜んでいるが、集会等で場所を移動したり大きい子が関わろうとしてくれることには緊張し、担任がそばにいても不安な様子を見せる。
- 落ちついて遊ぶ姿がある反面、活動によっては集中することが難しいのか、ピョンピョン飛び跳ねたり、つま先立ちで目的なく動く姿も見られる。

### 保育の中で工夫したこと（手立て）

- ◇トイレに行く事を重視するのではなく、オマルに座ることに慣れることを目標とし、落ち着ける場所として部屋のすみにオマルを置く。
- ◇ゆったりと関わり排泄を誘う言葉をかける。
- ◇オマルに座ることを促した時や、不安を感じる場面や活動は予測されるので、特定の保育士ができるだけそばにいるようにする。
- ◇集中しにくい姿や、気になる行動が見られる場面や活動を見極め、意識的に好きな遊びに誘う。

### こどもの反応・変化

トイレの入り口付近にオマルを用意するとすぐに興味を示す。「このオマルでおしっこするんだよ。座ってみようか。」と誘うと「うん。」と嫌がることなく自分で座ることができた。初めておしっこが出たときには「あ〜。」と指さし「おしっこ出たね。」と言うと「でった〜。」と笑顔を見せる。保育所の生活に慣れ、主に関わる保育士を『自分の先生』とわかってきたようで、自分から安心できる保育士のそばに来るようになり、違う場所でも笑顔で参加できることが増えてきた。場面によっては目的なく動く姿はまだ見られるが、友だちとの遊びに誘うと喜んで入ってくる。

☆家庭でも、トイレでの排泄を始めようかと思っていることもあり「トイレを嫌がる・怖がる」に印がついているので、この姿からのスモールステップを考えることが大切です。

☆不安要素を取り除いたうえで排泄のステップを踏むための手立てとして、1番慣れている保育室にオマルを用意します。最終的にはトイレで排泄することを目標にするので、オマルを置く場所はトイレの様子が見える場所にし、友だちがトイレに行く様子を意識的に見せるようにしましょう。

☆不安（困り）を減らす工夫をすることで、不安が消えてできることが増えるので、その姿を認め共感します。できるだけ決まった保育士が関わり「Aちゃんのそばにはいつも先生がいるよ。だから大丈夫」と、意識した関わりを心がけ、安定した関係を築きましょう。

乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）

2歳児 名前 A 年 月 日

	項目	チェック欄
生活面	・生活習慣全般において、積み重ねることが難しい。	
	・好き嫌が多い。(食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など)	
	・トイレを嫌がる、怖がる。	○
	・トイレの水や水道の水をよく流す。	
	・気に入った服ばかり着る。	
	・ちょっとした汚れが我慢できず、着替える。	
	・布団に入ることに抵抗を示す。(抱かれていないと眠らない)	
	・睡眠のリズムがつきにくい。	
運動	・汚れた時、ふいてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる。	
	・抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない。(抱っこを嫌がる)	
	・ハイハイにならない。(親指でけられない、いつまでもずりばいになる等)	
	・かかとをつけずにつま先で歩く。	○
	・歩き方や身体の動きがぎこちない。 (バランスよく動かせない、階段の上り下り等)	
	・両足跳びができない。	
遊び	・よく転ぶ。	
	・手先の動きが不器用である。(積み木を積む、絵本のページをめくる等)	
	・粘土やのり等の触感を嫌がる。	
	・音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる。	
	・物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ。	
	・特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする。	
	・本来のおもちゃの扱いをしない、遊ばない。(物を何でも回す、並べる等)	
	・サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない。(筆圧が弱い)	
・ことばや動作のまねをしない。		
・人より物に興味を示す。(光る物、回る物、鏡等)		

認知・言語面	・物を渡してお願い(例えば、絵本を持ってきて読んでほしいことを示す等)をすることができない。	
	・指差しをしない。	
	・意味のあることばをしゃべらない。	
	・エコラリアがある。	
	・場に合わないことばやコマースシャルのフレーズを言うことが多い。	
	・ことばが増えず、語彙が少ない。	
	・発音が不明瞭で聞き取りにくい。	
	・単語が中心で2~3語文で話せない。	
	・指示の意味がわからない。(ことばの理解が難しいように感じる)	
行動・社会性・コミュニケーション	・呼びかけに反応しない。	
	・視線が合わない。	
	・初めてのことや、初めての場面を嫌がる。	○
	・落ち着きがない。(常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい等)	○
	・何もなくても、甲高い声や大声を発する。	
	・周囲に関心を示さない。	
	・表情が乏しい。	
	・困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる。	
	・大人(母・保育士)への愛着が強すぎる。(弱すぎる)	
・手をつなぐのを嫌がる。		
・特定のものにこだわる。		
・気持ちの切り替えが難しい。(何をしても泣きやまない)		
・友だちへの興味、関心が乏しく、一人遊びの方が多い。		

## 遊びにこだわりのあるBくん



2歳児より入所したBくん。友だちや友だちのしている遊びには興味を示さず、あちらこちらといつも動いている。

生活面では周りの様子を見て行動していることが多く、トイレの前までは行くが、排泄せずに戻ったり手を洗わずに座っている。また、友だちが座ると同じように座ったり、外遊びのためにテラスに行くと一緒にテラスに出るなど、周りを見て動いている。ブロック遊びでは特定の色や形にこだわりがあり、赤い色ばかり集めるが持っているだけで満足し、ブロックでの本来の遊び方にならない。電車が好きでいつも電車の玩具を手に持ち、部屋の隅のお気に入りの場所に並べてみたりしている。語彙数が少なく、不明瞭なため、保育士や友だちとのとのコミュニケーションも難しい。

☆好きな遊びの中で、保育士が「一緒だね。」「おもしろいね。」など言葉かけしながら、友だちと関わる機会を作っていく、友だちの遊びにも興味を持てるようにしていきます。

☆「特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする」に印がついているので、遊びが広がる工夫をしながら、その遊び方の見本を示します。

☆Bくんが楽しんでいる遊びに共感し発語を受けとめながら、語彙が広がるように意識した言葉のやりとりをしましょう。

☆複数担任間では、こどもに同じ対応ができるように常に話し合いを持ち、こどもの姿や家庭の状況等、情報を共有し意思一致することが大切です。

### 保育士の気づき（気になる姿）

- 特定の色や形にこだわりがあり、電車の玩具をいくつも手に持っている。
- 電車を一列に並べているところに友だちが来て列が崩れると、泣き叫びながら元に戻そうとする。
- 遊びの中では友だちに興味を示さないが、生活面では友だちが移動したりするのをよく見ていて、一緒についていく姿が見られる。しかし、全体への指示や生活の流れが理解できていない。

### 保育の中で工夫したこと（手立て）

- ◇保育士との安定した関係を作るため、特定の保育士と一緒に遊ぶようにする。生活の場面では個別に声をかけ、友だちの行動と結びつける。
- ◇好きな遊びをしている時に保育士が寄り添い、見本となる遊びを楽しむ遊び方を知らせていく。また、一定興味が向いてきたら保育士が仲立ちとなって、同じ遊びをしている友だちがいることを知らせていく。
- ◇興味を持って遊んでいる時に、語彙が広がるようにはっきりと言葉かけたり、意識して言葉のやりとりをする。
- ◇お気に入りの場所に板を斜めにして坂を作る・どの電車が長く走るか比べる・電車の写真を撮ってカードにし絵合わせをする、など遊びを広げる。

### こどもの反応・変化

保育士との信頼関係が少しずつできてきて、生活面では1対1で保育士がゆっくりと次の活動を話すと、理解して行動しようとしている。

電車遊びでは、平行遊びではあるが保育士がそばで見守っていると、一緒に遊ぶことは嫌がらなくなってきた。また、箱の中に電車を並べたり、違う電車と入れ替えてみるなど、自分で遊びを発展させて楽しむ姿もあり、楽しさを自分なりの言葉で伝えようとするようになる。

友だちとのトラブルは泣いて訴えるが、保育士が気持ちを代弁すると落ちつき、切り替えられるようになる。

乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）

2歳児 名前 B 年 月 日

	項目	チェック欄
生活面	・生活習慣全般において、積み重ねることが難しい。	○
	・好き嫌が多い。(食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など)	
	・トイレを嫌がる、怖がる。	
	・トイレの水や水道の水をよく流す。	
	・気にいった服ばかり着る。	
	・ちょっとした汚れが我慢できず、着替える。	
	・布団に入ることに抵抗を示す。(抱かれていないと眠らない)	
	・睡眠のリズムがつきにくい。	
	・汚れた時、ふいてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる。	
運動	・抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない。(抱っこを嫌がる)	
	・ハイハイにならない。(親指でけられない、いつまでもずりばいになる等)	
	・かかとをつけずにつまずきで歩く。	
	・歩き方や身体の動きがぎこちない。 (バランスよく動かせない、階段の上り下り等)	
	・両足跳びができない。	
	・よく転ぶ。	
	・手先の動きが不器用である。(積み木を積む、絵本のページをめくる等)	
遊び	・粘土やのり等の触感を嫌がる。	
	・音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる。	
	・物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ。	
	・特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする。	○
	・本来のおもちゃの扱いをしない、遊ばない。(物を何でも回す、並べる等)	○
	・サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない。(筆圧が弱い)	
	・ことばや動作のまねをしない。	○
	・人より物に興味を示す。(光る物、回る物、鏡等)	

認知・言語面	・物を渡してお願い(例えば、絵本を持ってきて読んでほしいことを示す等)をすることができない。	
	・指差しをしない。	
	・意味のあることばをしゃべらない。	
	・エコラリアがある。	
	・場に合わないことばやコマースシャルのフレーズを言うことが多い。	
	・ことばが増えず、語彙が少ない。	○
	・発音が不明瞭で聞き取りにくい。	○
	・単語が中心で2~3語文で話せない。	○
	・指示の意味がわからない。(ことばの理解が難しいように感じる)	○
行動・社会性・コミュニケーション	・呼びかけに反応しない。	
	・視線が合わない。	
	・初めてのことや、初めての場面を嫌がる。	
	・落ち着きがない。(常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい等)	
	・何もなくても、甲高い声や大声を発する。	
	・周囲に関心を示さない。	
	・表情が乏しい。	
	・困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる。	
	・大人(母・保育士)への愛着が強すぎる。(弱すぎる)	
	・手をつなぐのを嫌がる。	
・特定のものにこだわる。	○	
・気持ちの切り替えが難しい。(何をしても泣きやまない)		
・友だちへの興味、関心が乏しく、一人遊びの方が多い。	○	

## 発音が不明瞭なCくん



2歳児より入所したCくん。視線がなかなか合わず、名前を呼ばれても遊びに集中していたり、どこか違う方向を向いていて反応が無いことが多い。小さい時から抱っこされることを好まず、抱いても体が添わなかったと母親は話している。保育士や友だちと一緒に遊ぶことを嫌がることはほとんどないが、集団遊びなどでは手をつなぐことを極度に嫌がる。

単語は少し話すようになってきているが、不明瞭なので友だちとのコミュニケーションが取りにくい。保育士が話しかけるとエコラリアで返ってくることが多く、発語は「あんぱんまん」は「あんまん」、「だんごむし」は「・・(あ～)むし」になる。

外遊びでは砂がつくのを嫌がり砂遊びはしない。また、のりの感触や絵の具なども手や服につくと、大泣きして気持ちが大きく乱れる。きれいにすると落ちつきを取り戻す。

### 保育士の気づき（気になる姿）

- 生活や遊びの中で話したい気持ちは持っているが、発音が不明瞭だったり「おくすり」が「おすくり」になるなど聞きとりにくい。また、発語は単語が中心である。
- 友だちとの遊びの中で、言葉でうまく言えないために、わかってもらえなかったり、トラブルになることが増えてきた。
- ふれあい遊びや集団遊びの中で手をつなぐのを嫌がる姿や、感覚過敏のある姿がある。

### 保育の中で工夫したこと（手立て）

- ◇気持ちに寄り添い、場面や行動に合った言葉を保育士がゆっくり・はっきりと話しかけたり、代弁して知らせていく。
- ◇保育士は正しい言葉やイントネーションで言葉を返すように心がける。
- ◇こどもの一語文を二語文で返すように意識する。
- ◇静かな場所（聞きとりやすい）で絵本を一緒に見て、言葉を引き出す。
- ◇手をつなぐことを無理強いせず、物（ハンカチ・人形など）を媒介としてつなぎ、遊びの楽しさを知らせていく。また、のりを使う時はスティックのりを使うなど、直接手につかないようにする。

### こどもの反応・変化

全体指示には戸惑う姿が見られるが「外に遊びに行くから、先にトイレに行こうね。」「おもちゃを片づけて、おやつを食べるよ。」と、そばで個別に声をかけて次の行動を知らせると、理解して自分で行動するようになる。また、視線が合うようになり、保育士の言葉を復唱したり、自分から話しかけてくる姿が増えた。友だちの様子を見て、ふれあい遊びにも参加するようになり、物を媒介にすることで、誰とでも手をつなげるようになってきている。また、保育士が仲立ちすると、友だちと「タッチ！」と言って、手と手を合わせて喜び合う姿も見られるようになる。

☆好きな遊びでのやりとりや一緒に絵本を見るなどの中で、こどもの言葉を引き出すようにしますが、やりとりを楽しむことを大切にして、言葉が不明瞭なところは言い直すことを強制せず、保育士がゆっくり丁寧に反復し、正しい言葉やイントネーションを知らせていきます。

☆日頃から、挨拶や手遊びなどの楽しい雰囲気の中で、友だちとふれ合う体験を重ねましょう。

☆嫌がることは無理強いせずに、別の関わり方や方法を知らせていくことも大切です。

乳児期における『気になるこども』に関する気づきの観察事項（チェックリスト）

2歳児 名前 C 年 月 日

	項目	チェック欄
生活面	・生活習慣全般において、積み重ねることが難しい。	
	・好き嫌いが多い。(食べられるものが少ない、食感覚、色が嫌など)	
	・トイレを嫌がる、怖がる。	
	・トイレの水や水道の水をよく流す。	
	・気に入った服ばかり着る。	
	・ちょっとした汚れが我慢できず、着替える。	
	・布団に入ることに抵抗を示す。(抱かれていないと眠らない)	
	・睡眠のリズムがつきにくい。	
運動	・汚れた時、ふいてもらったり、洗ってもらったりすることを嫌がる。	
	・抱っこやおんぶで自然に身をゆだねられない。(抱っこを嫌がる)	○
	・ハイハイにならない。(親指でけられない、いつまでもずりばいになる等)	
	・かかとをつけずにつま先で歩く。	
	・歩き方や身体の動きがぎこちない。 (バランスよく動かせない、階段の上り下り等)	
	・両足跳びができない。	
	・よく転ぶ。	
遊び	・手先の動きが不器用である。(積み木を積む、絵本のページをめくる等)	
	・粘土やのり等の触感を嫌がる。	
	・音など外からの刺激に対して敏感に反応し、注意が散漫になる。	
	・物を一列に並べたり、積んだりして遊ぶ。	
	・特定のおもちゃで遊び、同じ遊び方ばかりする。	
	・本来のおもちゃの扱いをしない、遊ばない。(物を何でも回す、並べる等)	
	・サインペン、クレパス等でぐるぐる丸を描けない。(筆圧が弱い)	
	・ことばや動作のまねをしない。	○
・人より物に興味を示す。(光る物、回る物、鏡等)		

認知・言語面	・物を渡してお願い(例えば、絵本を持ってきて読んでほしいことを示す等)をすることができない。	
	・指差しをしない。	
	・意味のあることばをしゃべらない。	
	・エコラリアがある。	○
	・場に合わないことばやコマースシャルのフレーズを言うことが多い。	
	・ことばが増えず、語彙が少ない。	
	・発音が不明瞭で聞き取りにくい。	○
	・単語が中心で2~3語文で話せない。	○
行動・社会性・コミュニケーション	・指示の意味がわからない。(ことばの理解が難しいように感じる)	○
	・呼びかけに反応しない。	
	・視線が合わない。	○
	・初めてのことや、初めての場面を嫌がる。	
	・落ち着きがない。(常に体のどこかが動いている、椅子に座ることが難しい等)	
	・何もなくても、甲高い声や大声を発する。	
	・周囲に関心を示さない。	
	・表情が乏しい。	
	・困った時など、状況にそぐわない言動でその場を逃れる。	
	・大人(母・保育士)への愛着が強すぎる。(弱すぎる)	○
・手をつなぐのを嫌がる。	○	
・特定のものにこだわる。		
・気持ちの切り替えが難しい。(何をしても泣きやまない)		
・友だちへの興味、関心が乏しく、一人遊びの方が多い。		

## 乳児支援グッズ

### 椅子の工夫



背の高さに合わせて、足置き台を置きます。  
背当てをお尻の大きさに合わせて入れると、足と背中がきちんとつくので姿勢が安定します。

### スケジュール表



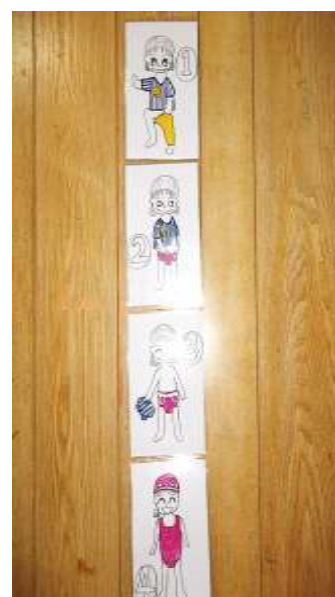
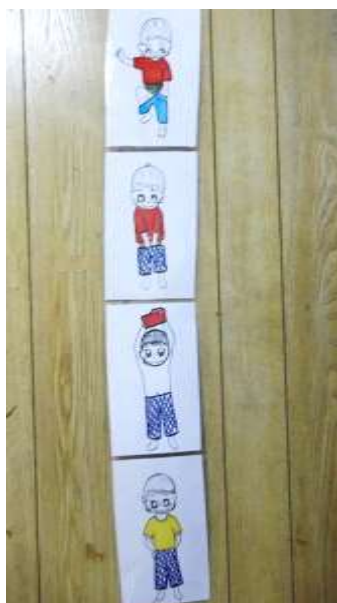
半日の流れを、イラストを使って知らせます。流れがわかると安心して過ごすことができます。

### 時計



見通しがつくように、知っている果物で表示します。

### 着替えの手順表



### 服のたたみ方



簡単な手順を示すと、2歳児なら楽しみながらまねっこします。

イラストで、4つの手順にして示すことで、乳児にもわかりやすくなり、自分でしようという、意欲につながります。



タオルかけ



生活の中でも、指先を使う工夫をしています。

トイレの座る向き



帰る用意



自分でわかって行動します。

水の量を、絵を合わせて調節します。

水道の蛇口・コップに入れる量



ひもとおし

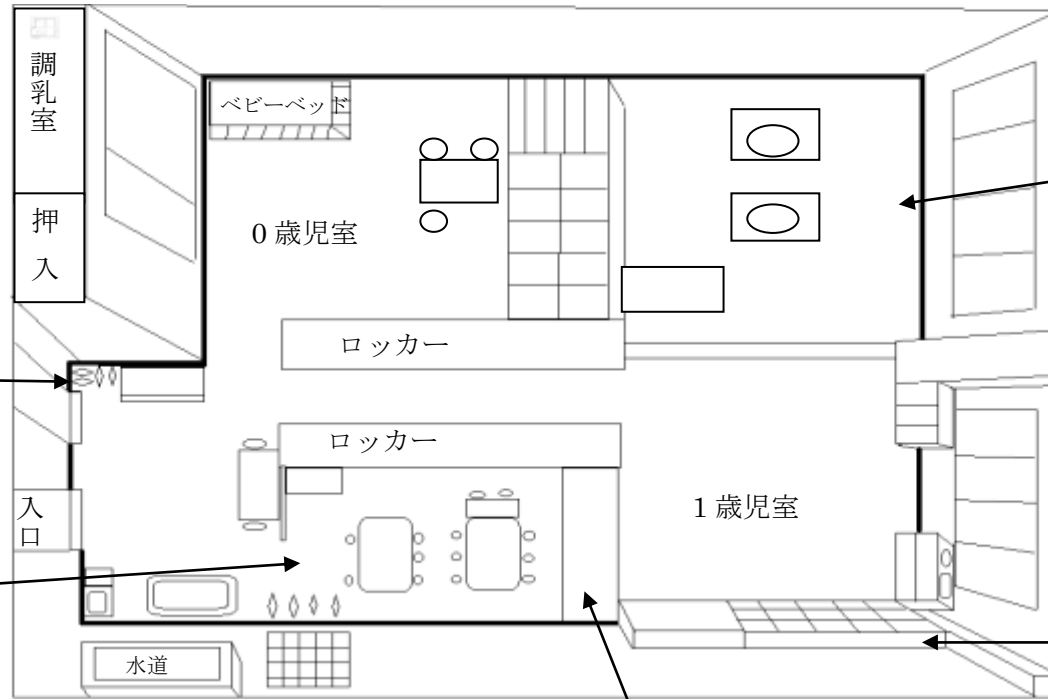


玩具は1人分ずつ分けて準備しておくことで、トラブルになることが減り「自分の分」がわかることで、安心して遊べます。

# 乳児保育室の構造化

## 食寝分離

食事スペースと午睡・遊びスペースを分け生活していく室内環境です。  
食事→遊び→食事→午睡と、こどもが「次はここで〇〇する」と生活の流れを理解し活動できるよう部屋を作っています。  
分離することが難しい保育室の場合は、こどもの動線を考え、見通しを持って生活できる環境を工夫できるといいですね。



トイレ用タオルフック  
着替え用椅子



食事・制作コーナー



汽車・ブロックコーナー  
午睡 コーナー



ままごと 玉落とし  
ポットン  
カップ



棚を利用した  
遊びコーナー